

8thの息子の学校生活(後編)

先月号の前編では、5歳から6歳までの1年間はシンガポール、7歳から9歳まではアメリカのカリフォルニア、そして2か月間の日本滞在を経て9歳からヒューストンで暮らす息子の、5thまでに直面した困難と成長についてお話をしました。

一時は、退学と本帰国を決意するほどであった当時5thの息子。もう一度頑張ると決め、少しずつ学校へ行けるようになっていた矢先、コロナウイルスの蔓延によりロックダウンとなりました。そのため春休みが延長になり、ずっと家の中で家族としか交流せずにいる事に、親の私はとても不安でした。しかしそんなとき、息子に救世主が現れます。シンガポールにいた頃の日本人の友達が「フォートナイトやろう」と息子を誘ってくれて、その友達繋がりでアメリカ人の友達と英語でオンラインゲームをするようになりました。それから息子はどんどん英語で会話できるようになり、アメリカ人の友達と二人でケラケラと笑いながらゲームをするようになりました。

コロナによるオンライン授業は、親子で四苦八苦。Zoomの使い方を親子で学び、先生達の授業の進め方も親子で学び、オンライン授業の初日は我が家以外にも殆どの親が後ろに待機していました。オンライン授業が始まってしばらくして個別のカンファレンスがあり、その時に担任の先生に言われたのが「課題は手伝わないで欲しい」という事でした。私達(ほぼ主人ですが)は息子がわからなくて大変だろうと思い手伝っていたのですが、先生曰く、「本当の彼の実力を見たい」と。それを本人に伝えると自力で課題をこなすようになり、分からないことは自分で聞く事が出来るようになっていきました。



そして授業が対面かオンラインの選択ができるようになった時、真っ先に対面に戻しました。本人に聞いたところ、「オンラインでは質問ができない。学校に行きたい」となったので学校に行かせました。そこからは学校の友達と会話をするようになりました。ヒューストンに来た時から、学年もクラスも変わり新しい気持ちで学校に行けるようになったのかなと思いました。授業が対面になったと同時に、アパートのエントランスまで迎えに行くのをやめて一人で帰って来させるようにしたところ、アパート内の子どもとも話すようになりました。会話の中で「ずっと一人だから一人が好きなんだと思っていた」と言われたようで、「そんな事ない」と答えると話しかけてくれるようになったようです。Elementaryの最後の面談でmiddleに進むかelementaryをもう一回やるかの意思確認がありました。「このままmiddleに行ってもやって行けると思う。」と言ってもらえ、私達もmiddleに進ませたい、本人もmiddleに行くという事で話はまとまりました。カウンセラーの先生からは、「今はもうあの頃の〇〇(息子)はいないね。すごく成長したと思う」と言っていただけで、本当に感謝しています。先生達が辛抱強く見守ってくれて、サポートしてくれたお陰で息子も乗り越えられたと思います。

現在そのアパートからは引っ越ししてしまいましたが、新しい家を決める際、息子に今のままの学区と新しい学区のどちらが良いかと聞いてみたところ、「今のelementaryの友達と一緒に学校に行きたい」との事だったので同じ学区内で家を決めました。Middleは中々友達を作りにくいようです。同じ選択授業の子も他の授業は違うといった感じで、移動も多いので大変そうです。でも、話を聞くと、お昼を一緒に食べている子はいるようなので、少し安心しました。

親がヤキモキ心配しても、本人が動こうとしなければ何も始まらない。子供の年齢が上がるにつれて、親の出来ることは少なくなっていきます。でも、出来る限りの事はしてあげたい。プログラミングも習い事で行ってみたいけれど合わずに辞めて、今はピアノに挑戦しています。補習校の対面授業も始まり、日本語で会話出来る同い年の子にも会えるのがとても楽しみなようです。息子はおちゃらけキャラなので、自分が言った冗談に笑ってくれるのが嬉しいようで、日本語が一番自分らしくいられるようです。帰国子女である友人の言葉ですが、現地校とは別のコミュニティに入るのも大事、と言っていたのがよくわかります。



SNS上では全てがキラキラに見えて、「なんでうちの子は友達が出来ないのだろう」「どうして上手くいかないのか」「みんな楽しんでいるからうちの子も楽しめるはず」と、色々思う事もあると思います。子供ならばすぐに英語を話せるようになると思っている方も多くいます。けれど、私の息子のように、とても時間のかかる子もいます。子供によって全く違います。親のサポートも大変です。現地校にも行き、補習校にも行き、習い事にも行き、毎日子供達は頑張っています。しかし、この経験が子供の自信に繋がると信じています。私達は何もしてあげられなかった。それは本当に申し訳ないと思っています。けれど、これからも一緒に問題解決していこうと思います。middleに行く自分でやらないといけない事だらけなので、サポートは少しになってしまいそうですが。

これから渡米の方も、今現在進行形の方も、問題解決できた方も、みんなその時のベストを尽くしているはずです！海外経験があっても、環境によって慣れる速度は人それぞれです。子供達のそれぞれに合った学校生活が送れるように願っています。(編集委員)

